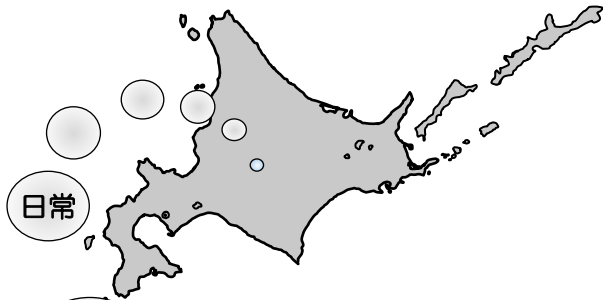


歴史家と写真家のまなざしに想う

北海道史が問われること

～地貌（ちぼう）は読み解かれたであろうか～



小さな物語

地貌

歴史は、国家という大状況から説く「大きな物語」か、日常の営みである小情況を読み解く「小さな物語」かで、異なる世界が展開してきます。ここに問い語る世界は、北海道の自治体史を彩る国家の鑄型に重ねて描かれてきた「大きな物語」ではなく、大地の記憶に彩られた土地の貌（かお）ともいうべき地貌を読み解く「小さな物語」です。「小さな物語」を描く作法こそは、これまでの北海道の在り方をして、大地に刻印された世界から問い質すことを可能とするのではないのでしょうか。（大濱徹也氏 記）

平成30年(2018年)

6月2日(土)

午後1時～3時

大濱氏の講演に続き、露口氏が「大地の貌」をたどってきた作品の数々を投影します。北海道に横たわる大地の記憶は、カメラを通してどうとらえられてきたのでしょうか。

そして、気鋭のライター・谷口氏が、大濱氏と露口氏のトークセッションをコーディネート。歴史家と写真家という異なる視点から、新しい歴史観へのヒントが見えてくるかもしれません。

3部構成から成る講演会にご期待ください。

●場 所

かでの2・7ビル1060号会議室
(札幌市中央区北2条西7丁目)

●受講料

保護協会会員 無 料
非会員 700円

●申込み

(一財)北海道文化財保護協会
電話・Fax011-271-4220

大 濱 徹 也 氏

1937年山口県生まれ。東京教育大学文学部卒業。文学博士(東京教育大学)。中京大学、筑波大学、北海学園大学教授、独立行政法人国立公文書館理事などを歴任。現在、筑波大学名誉教授、札幌市公文書管理審議委員会会長、福岡県共同公文書館運営専門協議会会長。著書／『乃木希典』(雄山閣出版1967年、河出文庫1981年、講談社学術文庫2010年) 『明治の墓標「日清・日露」～埋れた庶民の記録～』(秀英出版1970年、河出文庫1990年) 『天皇の軍隊』(教育社歴史新書1978年、講談社学術文庫2015年)、『アーカイブズへの眼～記録の管理と保存の哲学』(刀水書房2007年)、『新編天塩町史』(天塩町1993年)など多数。

露 口 啓 二 氏

写真家。東川賞特別賞受賞。北海道立近代美術館、八戸市美術館、日本文化会館、ローマ・日本文化会館、パリ・国際交流基金フォーラム等での個展、グループ展多数。写真集『自然史』は朝日新聞全国版書評で横尾忠則氏から絶賛される。今年2月に写真集『地名』を出版した。

谷 口 雅 春 氏

ライター。著書に、『奇跡の音楽祭・札幌PMFの夏』、『札幌アートウオーク』(ともに北海道新聞社)、『千年の響きー正倉院楽器復元とアンサンブルオリジン』(小学館スクエア)、『大地の遺産・聞き書き午来昌』(響文社)など。現在、Webマガジン「カイ」や、朝日新聞北海道版に「北のインデックス」を連載中。